

令和6年度司文庫基金運営委員会 会議要録

■開催日時 令和6年11月14日（木） 午後3時～午後4時

■開催場所 中央図書館 3階 第2・3会議室

■出席委員（5名）

大野晴子委員、金田文子委員、高須博久委員、田村圭司委員、秦 正子委員

■事務局（7名）

（美術博物館）岡田館長

（図書館）坂口館長、津滝補佐、田中補佐、遠藤専門員

永井主査、中野

■議事概要

1. 開会
2. 館長あいさつ
3. 議題
 - （1） 委員長、副委員長の選出について
 - （2） 令和5年度事業報告について
 - （3） 令和6年度事業について
 - （4） その他

■ 発言要旨

(事務局)

正副委員長が決まるまで、事務局が議事を進めます。

〈図書館長あいさつ〉

〈委員及び職員各自自己紹介〉

(事務局)

〈令和6年4月1日に改正があった豊橋市司文庫基金運営委員会要綱について経緯を説明〉
豊橋市司文庫基金運営委員会要綱第6条第1項(委員の互選による委員長及び副委員長を置く)
に基づき、正副委員長の選出をお願いしたい。

(委員)

委員長に金田委員を、副委員長に高須委員を推薦する。

〈全員異議なし〉

(事務局)

令和6年度豊橋市司文庫基金運営委員会の委員長を金田文子委員に、副委員長を高須博久委員に決定した。議題(2)以降の進行は、委員長にお願いする。

(委員長)

議題(2)の「令和5年度事業報告」と司文庫の経緯について、事務局に説明をお願いする。

〈事務局が、資料に沿って説明〉

(委員長)

質問はございますか。 質問なし。

次に議題(3)の「令和6年度事業」について説明をお願いする。

〈事務局が、資料に沿って説明〉

(委員長)

質問はございますか。

小中学生に分かりやすい図鑑を購入ということだが、実際に小中学生が手に取る機会は

どれぐらいあるのか。

(事務局)

司文庫の書架は中央図書館の2階にあり、2階の雰囲気が静かなので、小中学生が来ること自体が少ない。そのため、学校貸出の利用をすすめたいと考えている。

(委員長)

引き続き、「令和6年度事業」の司文庫展の説明をお願いします。

〈事務局が、資料に沿って説明〉

(委員長)

質問はございますか。質問なし。

全体を通しての質問、意見や確認したいことなどございますか。

(委員)

司文庫には、美しい図鑑や絵本があるが、実際に子どもたちが目にする機会は学校図書室ではほとんどないと思う。そのため、職員が興味をもち、積極的に学校貸出や特別貸出の利用があるといいと思う。学校では、毎月子どもたちへ読み聞かせを行っているが、今は学校内の図書で行うのみなので、もっと幅を広げて、学校の司書やボランティアに情報を宣伝し、中央図書館、分館でも貸出をお願いできるといいと思う。

また、しかけ絵本は、低学年の読書に関心のない子どもにも興味をもたせるきっかけになると思うし、オーデュボンの版画も見ることがあるといいと思う。

(委員)

絵本や図鑑だけではなく、教科書も大人になってから手に取る機会があるのはいいと思う。いろいろな出版社の教科書があるので見比べてみるのも興味深い。

(委員)

読み聞かせの現場では、子どもが興味をもつ本を選ぶのがとても難しい。ストーリー性があっても字がたくさんあるものは興味を示さない。司文庫にもたくさん絵本があるが、絵がまじめだったり、字が多すぎる本が多く、読み聞かせで使える本は少ないため、自分でも用意している。

(委員)

特別貸出はどれぐらいの期間貸出できるのか。

(事務局)

基本は、1ヵ月間です。

(委員)

オーデュボンの図版はすばらしいので、(小中学校などへ)巡回をして子どもに見せる機会を作るといい。また、親はスペイン語、ポルトガル語、子どもは日本語を話す家庭で、親子で一緒に楽しめるような多民族、多言語に触れるパッケージを作って巡回できるといいと思う。

(委員長)

活字の黙読だけではなく、いろいろな発音の音があると楽しめる。

(事務局)

青陵生涯学習センターに司文庫の本の設置があるので、そういう場所が増えれば、司文庫を見ていただく機会が増えるのではと思う。

また、今回の展示では、多言語でそろえた『はらぺこあおむし』『にじいろのさかな』の本を展示している。よく知った話で、言語の違いが見て分かるので興味を持っていただけと思う。また、多言語でそろえた貸出パックの活用を検討している。

(委員長)

図書館側で、司文庫について課題となっていることはあるか。

(事務局)

中央図書館の2階にあるので、2階まであがってきてもらうことが難しいこと。

市民の方にあまり認知されていないので、こういった形でPRし、活用していけばいいかについてご意見を伺いたい。

(委員)

まちなか図書館で移動展示室が作れないか。

(事務局)

まちなか図書館には、定期的に美術書を置いたりはしているが、テーマを決めて置いているわけではない。

(委員)

司文庫として、ここに展示してあるということを示し、興味を持った人は中央図書館へ足を運んでもらうという連携が必要だと思う。

(委員)

外国語のスクールには司文庫について案内はしているのか？

(事務局)

案内はしていない。

外国籍の子どもが多い学校にはお知らせはしている。

(委員)

日本人で、外国語を学ぶ意欲を持っている方は興味を示されると思う。

(委員)

読み聞かせに参加された方が、読み聞かせに使った本に興味を持ちどこで借りられるか聞かれるが、司文庫にはなく、自前の本を使っていることが多い。読み聞かせを記録する日誌があり、どんな本を読んだか、反応がよかった本について書いてあるので、選書の参考にしてみてもいいのでは。最近使用した『What's in the Witch's Kitchen? 魔女のキッチン』はとても反応がよかった。

(委員長)

学校の先生に司文庫を知っていただくにはどうすればいいか。

(委員)

みんなが本に興味をもっているわけではないが、担当教諭が、学校の図書室の展示をしていて、展示があると図書室の中に入らなくても、廊下からも見えるので、低学年の子は特に興味をもつ。

子どもたちに読書をさせたいと思っている職員がほとんどなので、「秋だから本を読もう」と読書をすすめるなどして、本を読みたいという気持ちを育てられるといいと思う。

(委員長)

低学年の子でも興味を持てるような、チラシやポップ、ポスターがあるといいと思う。

以上で、司文庫基金運営委員会を終わります。ありがとうございました。